

正応四年銘釈迦種子板碑



〔登録年月日〕平成一二年二月二二日
〔種別〕有形文化財（古文書）
〔名称〕正応四年銘釈迦種子板碑
〔点数〕一基
〔所有者等〕天沼熊野神社
〔所在地等〕天沼二―四〇―二

正応四年銘釈迦種子板碑

この板碑は長さ五八・五cm、緑泥片岩を素材とした武蔵型板碑である。正応四年（一二九一）二月の紀年銘をもつこの板碑は、区内で三番目に古いもので、蓮座が線彫りになっている点を特色とする。また、釈迦種子（バク）を主尊とする板碑は例が少ない。上端は山形をなし、二条線の下は平滑、根部は狭くなっている。頂部と根部は若干欠損し、紀年銘の二月の「二」の第二画が後に太くされているが、ほぼ当初の形状を保っている。なお、裏面は荒削りのままである。

通常、板碑の蓮座は肉太に深く彫られるが、蓮弁の輪郭を浅く線彫りした蓮座線彫りの板碑は、鎌倉時代後期の武蔵型板碑に見られるもので、区内では八基が存在する。本板碑はその中でも最古のものであるばかりでなく旧多摩郡でも最古のものといわれている。

本板碑は天沼の旧家である浅倉金太郎家地内にあつたもので、浅倉氏の先祖が天沼来住の際、持ってきたとの伝承がある。明治時代には『太現尊大神』のご神体として浅倉氏によって祭られ、現在では熊野神社の末社「太現尊大神」祠内に奉安されている。

この板碑は、蓮座線彫り板碑としては区内最古、多摩郡最古であり、かつ浅倉（朝倉）氏の天沼来住の伝承にかかわるものとして、区の歴史、伝承の上からも貴重な文化財である。

【文化財所在地】

